

令和 3 年 3 月

世田谷区立緑丘中学校  
校長 高山 知機 様

世田谷区立緑丘中学校  
学校関係者評価委員会

## 令和 2 年度学校関係者評価委員会報告書

本年度の学校関係者評価を以下のようにまとめましたので、報告いたします。  
まず緑丘中学校の基本的考え方として、「学校にかかわるすべての人の人権が尊重され、学校は生徒のためにある」との理念の下、「生徒が将来への夢や希望を持ち続け、自己実現に主体的に取り組める学校、生徒、保護者と教職員が信頼関係で結ばれ、地域社会に応援してもらえる学校をめざす」が挙げられている。その基本的理念をもとに令和 2 年度の学校関係者評価を行った。以下、令和 2 年度の「学校関係者評価委員会資料」の基本方針と方策に沿って、その項目ごとに所見を述べる。

### I. 基本方針と方策について

#### 1. 学力向上と「世田谷 9 年教育」で培った知識・技能を活用できる能力の育成

今年度の学習指導に関する生徒アンケート項目で「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」について、生徒全体では 84%と、昨年度の 82%以上に肯定的な評価が出た。

「授業では生徒の話し合いや発表などの機会がある」の項目については、87.5%と高い評価となっている。本年度の学校基本方針と方策にある全教育活動において、言語活動を取り入れ、学習内容を活用し表現する授業の展開、を実施した成果といえる。

「先生は映像やタブレットなどの I C Tを利用している。」の項目については、76.4%が肯定的な評価となっている。教職員のヒアリングで、映像やタブレットは一定時間利用すると目が疲れるとのことであった。今後、利用時間と健康面に配慮しつつ、ぜひ I C T教育の積極的活用に取り組み、発展させていただきたい。

コロナ禍で削減された授業は、教科間で共有できる単元を統合し授業内容を補い工夫をされている（理科⇔技術科と、社会・公民⇔家庭科、社会・歴史⇔美術など）。「先生たちは生徒が相談しやすい」の項目については、進路選択時期の 3 学年は 78.8%と高めだが、生徒全体では 66.8%の評価であった。担任との個人面談の他に、副担任や各担当教科、進路指導なども 1・2 年生の時から希望者の面談機会を増やし、多数の先生方とのコミュニケーション機会が確保されればと願う。

#### 2. 体力の向上と健康に対する意識の高揚

生徒・保護者・地域の方々へのアンケート項目については、世田谷区の共通項目がこの状

況を鑑みていないものも多く、評価と整合性がとれていないものが散見される。緑丘中独自のアンケート項目については、評価委員会で検討し改めたものの、これも学校経営方針と重なりにくいところが見受けられる。その項目については、教職員からのインタビューや自己評価、そして学校通信の「みどりがおか」などを参考に評価させていただいた。

この体力の向上と健康に対する意識の高揚については、健康を適切に管理、改善する能力を育てる学習の充実、また食に対する感謝の気持ちを育み心身の健康によい食習慣を身につけるなどが掲げられている。

#### ① 新体力テスト等を活用した体力向上、健康に対する啓発指導

新体力テストとは、東京都がおこなうスポーツテストで、その結果を項目ごとに都の平均と比較して不足しているところなどは体育の授業に反映させているとのことであった。この授業に反映させているということについては、生徒や保護者への周知がおこなわれていないようなので、学校通信「みどりがおか」などで公表し、学校全体で体力増進の雰囲気を盛り上げることも大事ではないかと考える。

「私は体力向上や健康な生活に取り組んでいる」70.6%、「私は体調管理に気を付けている」83.4%、「子どもの健康に気配りしている」90.5%と、いずれも肯定的回答が高くなっているが、しいて言えば生徒本人の主体的な体力向上や健康な生活に対する意識が少し低いようにも思われる。この点については、学校として雰囲気を盛り上げるところから始めていただけるとよいのではないかと考える。

### 3. 人権を尊重した教育活動の推進

#### ① 人権教育プログラムを活用した校内研修の実施

「人権教育プログラム」は東京都教育委員会が発表しているもので冊子として校内に配布されている。これをもとに授業や学校経営を各担当者、担任がおこなっているということであった。

#### ② 道徳時間を活用した継続的な心の教育の実施

学校のルールや挨拶について、生徒がどのように感じているかをアンケートからみると、「私は学校のルールについて考えて行動している」87.6%、「先生は学校のルールを生徒に考えさせて指導している」79%と2項目とも肯定的評価が高くなっている。

#### ③ 対処的な生活指導における教職員間の綿密な連携構築

「先生たちは生徒にわかりやすく指導している」84.3%、「先生は生徒の意欲を大切にしている」75.5%、と高評価の反面、保護者の同じアンケートに対する回答は56.5%と生徒との乖離がみられる。②③ともに関係のある教職員の自己評価からの項目をみると、「細かな確認ができていない」「校則について共通で確認する時間をとる必要がある」などの意見もでていた。

生徒のアンケートからは「先生の指導がわかりやすいと思っている」は84.3%と高評価であるものの、先生によって指導が違い、学年によって注意されることが違うという自由

回答も散見された。

今年度は校則についてだけでなく、様々な場面で共通認識をもつ機会が少なかったように思われるが、コロナ対策のなか授業時間確保のための時間を多くとられたことは想像できる。一方、このような時期だからこそ教職員の情報の共有、共通理解を深めて生徒の指導にあたっていただくことが大事なのではないかと思う。来年度はぜひここから始めていただくことを要望する。

#### 4. 伝統・文化に関する教育の充実を視野に地域と信頼関係で結ばれた学校づくりの推進

##### ①学校・学年・学級だよりなどを通じた、適切な学校情報の発信

保護者 85.1%が「本校は、学校・学年だよりなどで、保護者に情報を提供している」とし、地域 97.8%が「学校からのお知らせなどにより学校の様子がわかる」と回答している。これらは、昨年度より評価は上がっている。

また、保護者 67.1%が「本校は、HP やメールなどで、保護者に情報を提供している」とし、地域 66.7%が「HP に学校からのお知らせや学校生活の様子がわかる情報が掲載されている」としている。昨年度よりどちらも少し評価は上がっている。

したがって、適切な学校情報は発信できているといえる。しかし、自由記述では、連絡事項や年間スケジュールを HP へ掲載して欲しい、もっと見やすい HP にして欲しいなどの声が上がっていた。また、コロナ禍、保護者は学校へ行けなかったので、学芸会や公開授業のオンライン配信を望む声もあった。

学校の機材面や個人情報保護の観点から難しいこともあると思うが、今後できることから改善して更なる情報発信ができると良い。今年度、入学式前の休校で新入生との連絡が取れない場合、先生たちが新入生の家にポスティングへ行き、情報を発信していたそう。保護者は学校からの情報を得るために IT 環境や関連知識を得ることも必要な時代になっているといえる。

##### ②PTA や学校経営協力者との連携充実

昨年度の結果を踏まえて、学校運営委員会、学校協議会、合同学校協議会に関する情報提供を課題と捉え、各種たよりや HP の活用の推進を含めた広報に関わる工夫に取り組むとしていた。しかし、今年度はコロナの影響により学校運営委員会の活動は減り、学校協議会、合同学校協議会は開催できなかった。

アンケートでは、地域 61.4%が「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」とし、地域 64.5%が「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」としている。また、地域 63%が「地域の意見に対して、学校は丁寧の説明・対応している」となった。これは本年度というよりこれまでの緑丘中学校を地域の方々が評価したといえる。したがって、地域に信頼され、応援される学校づくりができているといえる。

また保護者 72.4%が「本校は保護者に学校の教育方針を伝えている」とし、保護者 58.9%が「本校は教職員が学校の教育方針を理解している」となった。今年度、PTA 活動もコロナ

の影響を受けて十分な活動はできなかった。

### ③特別活動などを活用した、地域催事への参加の奨励

昨年度、地域連携としての生徒の社会活動を継続するために、参加しやすい環境整備に努めていくとしていたが、今年度はコロナの影響を受けて地域催事の中止が相次いだ。その為、関連するアンケートの結果は昨年度より低くなった。コロナ禍の今年度は評価できる状況になく、来年度に期待したい。

## 5. 公的機関としての学校組織の運営

### ① 物品管理・物品購入の適正な執行と明確な運用

物品管理や購入について、自己評価によると、必要な時に所定の物品置き場に用意されておらず、仕事に支障をきたしているという意見が散見される。教職員のヒアリングから予算に不足はなく、購入が充分に出来ていないということではない為、適正な執行と明確な運用が出来ているとは言い難い現状が見受けられた。今後の改善に期待したい。

### ② 給食費、教材費等、私費会計の適正な執行と監査業務の徹底

アンケートには、これらに関する項目がなく、自己評価にもこれらに該当する記載がない。保護者間やPTAでも問題になることはなかった。

### ③ 決算報告書、会計事務に関する説明責任

決算報告書や会計事務に関する説明責任について、アンケート項目や自己評価にも該当する記載がないことから、特に問題として認識されていないように考える。「説明責任」とあるため、今後は説明がなされたことを証明する場や機会があると良いと思われる。

## II. 共通項目アンケートの評価

アンケートについては、前年度と今年度で世田谷区が設定した項目が若干違うこともあり、正確な比較とはならないが、学習、生活、進路という3つの柱で評価した。

### 1. 生徒のアンケートより

令和2年度の「学校関係者評価アンケート」の回収率において、生徒アンケートは、1年生92.3%、2年生91.9%、3年生90.5%であり、全体の回収率は約91.6%（前年度95.7%）でおおむね良好であった。

全学年を通して「学習面」に関する肯定的な評価として、「先生は分かりやすい授業をしている」の項目では85.5%、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の項目では84.0%、「授業では生徒の話し合いや発表などの機会がある」の項目でも87.2%と高評価である。「先生は映像やタブレットなどのICTを利用している」などでもおおむね評価が高く、これらの結果から教員の学習指導に工夫があり、生徒の学習に対する興味関心も高く、生徒には理解されていることがわかる。しかし少数ではあるものの「あまり思わない」「思わない」「分からない」との回答もあり、そこは今後、細心の配慮が必要と思われる。

「生活指導」については、「先生が指導したルールについては理解できる」79.2%、学校行事については、「学校行事は楽しい」83.4%、「学校行事は達成感がある」79.0%と肯定的な評価であるものの、今年度は行事の実施ができなかったことから考えると、これまでの行事について評価したものと思われる。この行事に関する項目では、1年生は最も低い結果が出ており、生徒一人ひとりが主体的に活動する場と意欲を高める指導の充実の継続を今後も期待する。

「進路指導」については、「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」80.0%、「学校は進路や将来の仕事に関する情報を提供している」73.7%で、前年度と比べて高い数値が出ている。今後も生徒の進路選択肢のきっかけとなる機会や場の提供をより多く設けていただきたい。

## 2. 保護者のアンケートより

保護者アンケートでは、1年生74.8%、2年生69.3%、3年生64.7%であり、全体的な回収率69.6%（前年度54.0%）で前年度に比べて高い傾向がみられた。これはコロナ禍において保護者の学校に対する関心が高まった表れかもしれない。

学習指導について「分かりやすい授業」43.9%、「黒板の書き方やプリントなどを工夫」36.3%など、前年度の全体的な学習指導評価約75%に比較して低くなっている。これは1年生保護者に評価の低さが多かったことから全体的に低くなった感がある。1年生保護者にとって、コロナ禍の休校期間、子どもの学習面に対する不安があったということに起因するのかもしれない。

学校運営について「本校は学校・学年だよりなどで保護者に情報を提供している」86.5%など、保護者への情報提供については高評価である。一方で「本校は保護者に学校の教育方針を伝えている」67.6%、「本校は教職員が学校の教育方針を理解している」58.1%との評価も見受けられた。今年度はコロナ禍ということもあり、保護者の理解を求める機会が少なかったため、今後はそれらの周知に努めていただければと願う。

## 3. 地域の方々のアンケートより

地域の方々のアンケートは47.5%（前年度31.4%）であり、前年度に比べて高い回収率となった。地域の方々は、「学校からのお知らせなどにより学校の様子分かる」97.8%、「学校は安心・安全な学校づくりを進めている」84.8%など「地域の学校」として肯定的な評価をしている。今年度の否定的回答（あまり思わない、思わない）として「緑丘中学校の生徒はいつもあいさつをしてくれる」23.9%、「学び舎の活動について情報が提供されている」11.4%があがった。アンケート項目に対して「わからない」としては「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」「学校運営委員会は活動を周知し役割を果たしている」などの項目が上がっていた。これらの結果についても、コロナ禍で生徒たちと交わる機会や学校を訪れる回数が少なかったことも起因していると思う。今後、配布物やICTを活用した広報の形も期待したい。

### Ⅲ. 自己評価について

学校の経営方針や教育方針については明確に示され、それを教職員が共有している点は評価できる。昨年度も同様であったが、やはり校務分掌の公平性や適切化が求められている。施設の安全を守るための鍵の管理、教材の管理運営に今後改善の余地があるのではと思う記述が見られた。今後の課題として、緑丘中学校だけのことではないが、今年度は十分な活用がされなかった ICT 教育について組織的・継続的な改善が求められる。幸い、来年度は教員に ICT 活用の研修機会があると伺った。

### Ⅳ. 独自項目を踏まえた学校関係者評価委員会としての総合所見

学習指導については、日頃から教員が努力され、分かりやすい授業の工夫をしておられることは充分把握できた。特に今年度はコロナ禍において休校やその後の授業時間数の確保、科目の単元などを見直しての教科指導案の練り直しなど、多くの工夫や努力を積み重ねられたことが教職員のヒアリングからもうかがえた。

コロナの感染予防など気を遣うことも多く、消毒作業など従来にない負担増であったと推察する。そのなかで生徒・保護者・地域の方々のアンケートはどの項目においても、おおむね高評価であった。それは、チーム緑丘中が丸となって努力された証だと思われる。

しかし一方で、ICT 活用や授業運営について生徒や保護者からの不安・不満もきかれた。緑丘中の伝統的な三大行事も中止となったが、今後は感染予防を徹底しつつも、新たな形で行事の取り組みなどが求められている。これは今後の課題として取り組み、改善していくことと思われる。

組織的・継続的な改善としては、保護者、地域からも高評価を得ている学校だより「みどりがおか」は、これからも学校内外への発信媒体として継続を願うものである。地域に信頼される学校づくりにおいては、これまでの実績を踏まえて地域の方々との連携は継続しており、コロナ禍が収束すれば、また共同の行事や取り組みは復活するものと期待する。

今年度は、コロナ禍において、学校は今までに経験したことのない新たな対応を迫られた。その状況下、高校進学に向けての指導やリモート活用の形など、様々な努力は続けられている。それらの点は高く評価したい。

令和2年度 世田谷区立緑丘中学校

学校関係者評価委員会

委員長 太田 由加里

委員 秋元 知子

委員 小倉 祥子

委員 松田 麻美

委員 武藤 朝子